

⑧ 神矢教親の留学、転任

金工科教授神矢教親（号龍珉）は大正九年三月十五日に欧米留学を命ぜられた。神谷は明治十六年七月十七日高知県幡多郡奥内村大字古満目に生まれ、同四十年本校に入學。同四十五年金工科卒業直ちに本校雇（金工科兼工芸化学助手）となり、大正七年四月図案科第一部金工製作法担任兼務、同八年四月助教（金工科彫金実習金工製作法担任）、同九年三月二日教授となった。

留学の目的は一年間イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ合衆国で金工術を研究することで、出発は大正九年三月二十二日。翌十年九月、イタリアも在留国に加えられた。彼は特に大正九年十月二十五日からロンドンの Central School of Arts of Craft で金工関係の科目を受講し、その余暇に英語、仏語を研修、また、広く美術館、学校、金工商店、工場等々を見学した。ニューヨークから正木直彦に送った手紙は校友会月報の職員動静欄に掲載されているが（本書16頁に転載）、同誌第二十巻第四号にはドイツから正木に送った手紙も次のように掲載されている。

大暑の候益々御清適奉賀候 私事其後無異去る〔大正十年〕四月英國内地の旅をなし五月初 皇太子殿下の御來歐を御迎へ致し中旬 London 出發 Paris に赴き春季 Salon 等を見て Bruxelles 至り再び Amsteldam 等に赴き各數日間滞在末日常地に來着仕り候 これより當分此地に留り當國內地及北方 Denmark Sweden Norway 及南方 Austria 及 Switzerland 等に向ひ秋冬は France 及 Italy に在留の豫定に致し候〔下略〕

神矢は大正十一年五月二十一日に帰国したが本校へは戻らず、同年六月十五日に東京高等工芸学校教授へ転任し、その後は秋田市上中城町五の私立工芸学校に勤務した（昭和四十年版『卒業者名簿 東京美術学校』東京芸術大学美術学部）。

⑨ 伊東亮次の留学

伊東亮次は明治二十年十二月二十二日三河国宝飯郡牛久保町生まれ。明治四十三年七月東京高等工業学校工業図案科（製版特修）を卒業し、翌四十四年十二月同校助教となつたが、大正三年九月、東京美術学校製版科の助教に転じた。彼は同八年三月休職して渡米し、写真および製版術を視察して同年十月帰国、同年十二月復職したが、同九年九月にはイギリス、フランス、ドイツへ一年間官費留学を命ぜられ、同年十月十五日に出発した。

本学所蔵「従明治四十四年至大正十四年、留学生・練習生ニ関スル書類、庶務掛」所収「申報書」（大正十四年五月十四日）文部大臣宛、控）によれば、伊東は大正十年一月五日ロンドン、ファーンドン街一〇九番のペンローズ会社工場に入り、輪転凹版印刷術を研究し、翌二月一日よりペンローズ・エクスペリメンタル・ラヴォラトリーに入り、ウィリアム・ガンブルに就いて製版印刷術を研究し、さらに同年四月十一日以降はエル・シイ・スクール・オブ・フォトエンングレイヴィング・アンド・ライソグラフィに入り、週二回カートライトに就いて製版術を研究している。

伊東は同十一年七月二十一日に帰国したが、彼の留学は後述の畑正吉と同様、東京高等工芸学校設立準備の一環として行われたもの